

ロータリーはみんなを幸福にする
2023. 3. 4. No. 27 通算No.1790

事務所/松本市深志 1-1-21 中田歯科ビル 5F
TEL:0263-36-7737 FAX:0263-36-6009
例会場/ホテルブエナビスタ 例会日/金曜日 12:30

委員長/高波雄一郎
副委員長/中田金一
委員/百瀬(正) 飯島 福田 靱山



移動例会 (3/3→3/4) ホテル・ブエナビスタ
第2回小学生による英語スピーチフェスティバル



☆本日のゲスト:(審査員)

- FMまつもと 川澄 巴里人 様 (審査委員長)
- 松本市教育長 伊佐治 裕子 様
- 信濃毎日新聞松本本社代表 畑谷 広治 様
- 駒澤大学外国語部名誉教授 小笠原 隆元 様
- 信州大学全学教育機構言語教育センター准教授
ルジチカ・デイヴィッド 様
- 松本ジャグリングクラブ代表 金井 ケイスケ 様



☆本日のビジター: 藤田ひろ子君 (松本城RC)
《ご報告》松本RC様、松本城RC様から支援金、ご祝儀を頂戴いたしました。ありがとうございました。
開会の言葉 永田利行奉仕プロジェクト委員長
会長挨拶 小林正樹会長
司会: 小笠原信隆幹事 小林あや青少年奉仕委員長
趣旨説明: 望月一将実行委員長



第2回小学生による英語スピーチフェスティバルにご参加いただきまして誠にありがとうございます。勇気をふりしぼってこの会場にきていただいた方もおられると思います。

さて、皆さんは「ロータリークラブ」がどんな団体かご存知でしょうか。ロータリークラブは、いろいろな職業を持つ人や、市民のリーダーが会員になって、自分たちの住む地域、そして世界をよりよくしようとさまざまな社会奉仕、人道的活動を行っている団体です。ロータリークラブは、約110年前、アメリカで生まれました。現在は200以上の国と地域に、3万6000を超えるクラブがあり、約120万人の会員がいます。日本には約2300のクラブ、約9万人の会員がいます。そしてこの小学生による英語スピーチフェスティバルも、私たちロータリークラブがよいことを実現しようと思って企画したものです。

現在、世界で英語を日常的に話す人の数は約17億5000万人だと言われています。日本語のような母国の言語とともに、公用語として英語を使う国も多くあります。英語に親しんでいただいて、ご参加の皆さんの世界が17億5000万人分広がればうれしいと私たちは考えます。また大勢の前で話をするということは社会のリーダーにとって、より必要な能力ですから、スピーカーの皆さんには人に話す楽しみや少しの緊張感を感じていただければこれもうれしいことです。そのうえでこのフェスティバルにご参加の皆さんが、これから大きく羽ばたく一つのきっかけになりましたら、それは私たちの何よりの喜びです。どうか日頃の学習、練習の成果を発揮してがんばってください。最後になりますが、スピーカーの皆さんはもちろんそのご家族、お友達、その他関係者の皆様のご協力なくして本日の開催に至ることはできませんでした。主催者一同を代表して厚く御礼申し上げます。



ありがとうございます。



⑦丸山 花

⑧水林亮太



⑨羯磨 柚奈

⑩ロック榎恋



① 小岩井奈津

②菊池 うらら



⑪小口慧乃



② 山尾佑太

④曾根原華



《最優秀賞》 おめでとうございます！

小口慧乃「What my food allergy has taught me」

《審査員特別賞》

加藤甚 水林亮太 ロック榎恋

◎講評 川澄審査委員長

⑤加藤 甚

⑥谷口蒼斗





★お楽しみパーティー★

くじ引き大会や軽食buffetを楽しみました♪

司会：村山智計親睦委員長

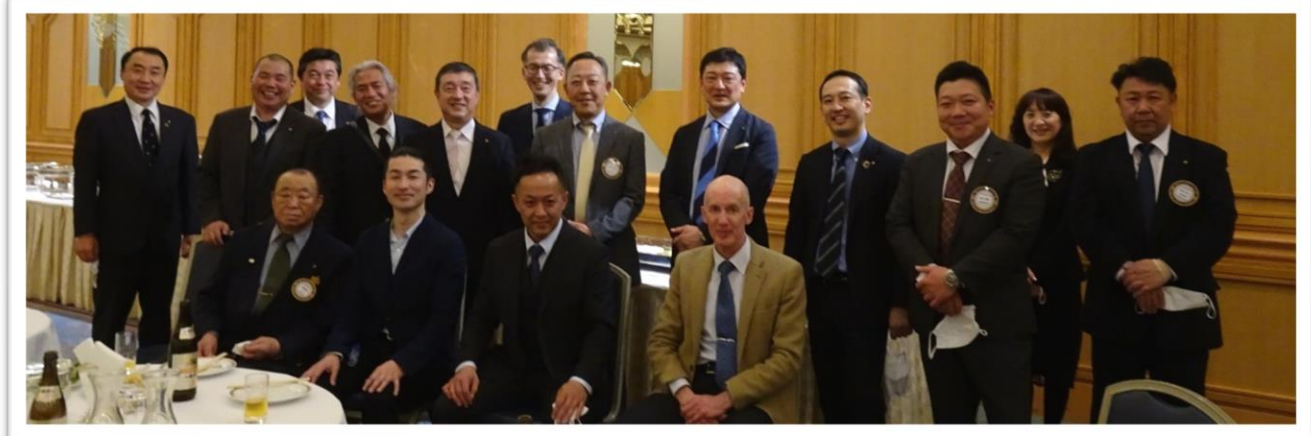


☆米山奨学生のロサフレテ・エミルセ・カリナさんが帰国の挨拶のため来場されました！



☆審査員の金井ケイスケさんによる

ジャグリングパフォーマンス♪



英語スピーチ 小学生が披露

松本

「小学生による英語スピーチフェスティバル」が四

日、松本市内のホテルで開催され、小学生十一人が三分間のスピーチを披露した。

松本地区の子どもたちの英語教育の一助になればと、松本東ロータリークラブ（小林正樹会長）が昨年

一月に小学四～六年生を対象に参加者を募集した。テーマは自由。一分程度の動画で事前審査を行い、通過者が壇上で発表した。

同市梓川小五年の加藤甚君（こ）は昨年秋に家族で防災キャンプに参加した経験を話し、自分で作ったあんどんなど被災時に使える道具も紹介した。「めちゃくちゃ緊張したけど、発表で



きて楽しかった。防災は大事、備えは大事だと伝わっ

英語で自らの体験を話す小学生 松本市内で

「たろうれしい」と達成感を感じました。
サッカー選手になる夢やペットを育てる大変さ、学校の姉妹都市交流を通して知った海洋プラスチックの問題を取り上げる児童もいました。

（山崎優日）

小学生 英語で将来の夢

(23) 令和5年(2023年)3月5日 日曜日

身ぶり手ぶりを交えてスピーチする小学生



松本東RC スピーチフェス

松本市の国際奉仕団体・松本東ロータリークラブは4日、第2回となる小学生の英語スピーチフェスティバルを同市本庄1のホテルブエナビスタで開いた。事前選考を通過した松本市の小学4～6年生11人が、流ちょうな英語で約3分ずつ、将来の夢や習い事について語った。

マスコミや行政関係者など7人の審査員を前にスピーチした。身

ぶり手ぶりを交えたり、小道具を使ったりして、伝えたいことをアピールする子供もいた。梓川小学校5年生の加藤甚君は、家族と

参加した防災キャンプをテーマに「家族を守るように、これから勉強を続けていきます」と誓った。

フェスは社会のリーダーや国際人の育成を目的に企画され、同クラブの小林正樹会長は「参加者が大きく羽ばたきつかけになれば何よりの喜び」とあいさつした。山辺小学校4年生の小岩井奈津さんは「緊張したけれど、審査員の人たちの顔をしっかりと見ながら話せてよかった」と笑顔だった。

（中村弘明）

2023年3月5日(日)付
市民タイムス